

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成17年9月15日(2005.9.15)

【公開番号】特開2000-5425(P2000-5425A)

【公開日】平成12年1月11日(2000.1.11)

【出願番号】特願平10-189836

【国際特許分類第7版】

A 6 3 F 7/02

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 5 0 Z

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成17年4月1日(2005.4.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の図柄を可変表示可能な複数の図柄表示部を図柄表示器に設け、図柄変動信号により図柄表示部の図柄が変動を開始し、所定時間後に、図柄が確定表示する可変表示ゲームが行われる遊技機であって、

1回の図柄変動開始信号に基づいて、前記図柄表示器には図柄が疑似確定表示される制限回数を表示し、

その後、前記図柄表示部の図柄が変動を開始し、所定時間後に、図柄を複数回の疑似確定表示することを前記制限回数まで実施した後に、図柄を確定表示することを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

【課題を解決するための手段】

請求項1の遊技機は、複数の図柄を可変表示可能な複数の図柄表示部を図柄表示器に設け、図柄変動信号により図柄表示部の図柄が変動を開始し、所定時間後に、図柄が確定表示する可変表示ゲームが行われる。

そして、1回の図柄変動開始信号に基づいて、前記図柄表示器には図柄が疑似確定表示される制限回数が表示され、その後、図柄表示部の図柄が変動を開始し、所定時間後に、図柄を複数回の疑似確定表示することを制限回数まで実施した後に、図柄を確定表示する。

そのため、1個の入賞球(1回の図柄変動開始信号)によって、制限回数(複数回)の可変ゲームが行われるので、あたかも大当たりとなる可能性が高くなつたような効果を奏することができる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0054】

【発明の効果】

請求項1の遊技機は、1個の入賞球（1回の図柄始動信号）によって、複数回の可変表示ゲームが行われる可能性があるので、あたかも大当たりとなる可能性が高くなつたような効果を奏すことができる。